

箕輪町の生活支援活動推進セミナー開催結果 ～福与区 SC が事例発表～

箕輪町社会福祉協議会は、平成 30 年 10 月 17 日(水)箕輪町文化センターにて 100 人を超える参加者のもと生活支援活動推進セミナーを開催しました。

当該セミナーは住民支えあい活動を学ぶ機会として開催したもので 4 回目となる今回は、3 地区の事例発表と長野県長寿社会開発センター講師・片桐美登氏をコーディネーターとしたパネルディスカッションを行いました。

福与区セーフコミュニティ協議会からは白鳥事務局長が、各対策委員会取組と平成 29 年 11 月に実施した「運転免許証の自主返納に係わるアンケート結果から見てきた福与区の課題」を発表しました。参加者からは各事例発表は大変参考になり、生活支援活動が軌道にのっている地区はうらやましいとの声も聞かれました。

○開催概要

- ・開催年月日 平成 30 年 10 月 17 日(水)午後 1 時 30 分から午後 3 時 50 分
- ・開催場所 箕輪町文化センターホール
- ・参加者 約 100 人で、民生児童委員、生活介護支援サポーター、ふれあいサロン関係者、地区組織関係者で町外からの参加者もみられました。
- ・事例発表 南小河内社会福祉協議会会長(前箕輪町 SC 高齢者の安全対策委員会委員長)
福与区 SC 推進協議会事務局長
伊那市日影地域社会福祉協議会事務局長



・パネルディスカッション

長野県長寿社会開発センター・片桐講師がコーディネーターをつとめ参加者からの質問に答える形で行われました。パネラーには事例発表者の他箕輪町役場高齢者福祉係長、箕輪町社会福祉協議会地域ふれあいグループリーダーが加わりました。



○事例発表の主な内容

- ・福与区 SC があげたアンケート結果から考える課題と対応への方向性
日常生活にかかわる現実的な問題への対応として、公的な扶助と地域での支えあいが必要
ふれあいを確保する仕組み作りとして、公的な場作りとお隣さん同士での日頃からの声かけ、助け合い
- ・生活支援は、1 人に対して 5 人が対応(南小河内)
- ・地域の支えあい作りのモデル事業として「あったかご近所ネット」推進(伊那市日影区)

○パネルディスカッションの主な内容

- ・支えあいの運営は、一部に行政、地区の補助金もあるが大半はボランティア
- ・別の支援要望が出た時の対応については、今行っていることの継続として対応
- ・今後、買い物支援が増加すると思う
- ・常会(自治会)未加入者はいないので、地区対応が可能
- ・町社協では、平成 6 年から送迎ボランティアを行った時があるが事故対応が課題であった。現在は福祉運送の許可をとり福祉車両の貸し出しのみ行っている。

以上